

教科書採択最前線・これが「沖縄」

南海の激闘 サンケイ VS 琉球新報 教育長不信任案まで

100人のNEWS

No. 26
NPO法人教育再生地方議員百人と市民の会
理事長 大阪市会議員 辻 淳子
【発行・編集責任者】
事務局長 増木重夫
大阪府吹田市古江台 2-10-13
TEL 090-3710-4815
FAX 06-6835-0974
http://www.100news.jp/~h100prs/

八重山教科書問題教育長不信任案提出

【石垣】石垣市議会
の野党会派は9日、教科書採択問題などをめ
くり八重山の教育行政
全般を混乱させたとし
て、教科用図書八重山
採択地区協議会の会長
を務めた玉津博克石垣
市教育長の不信任案を
12日開会の9月定例
会で提出することを決
めた。

同議会の議長を除く
与野党勢力は与党12
人、野党9人で不信任
案が可決されるかどう
かは不透明だ。
玉津教育長は教科書
選定の過程で協議会の
役員会を開かず調査員
を委嘱したことや、市
教育委員会で前例のな
い無記名投票で教科書
を採択したことなどが
問題視されていた。

野党の大浜哲夫市議
は「これまでの流れを
見ると、混乱を招いた
張本人は玉津教育長
だ」と指摘。一般質問
などで一連の問題を追
及し、議会最終日に不
信任案を提出する考え
を示した。

育鵬社不採択に「市民
の良識」教科書
考える住民の会
【八重山】育鵬社版
公民教科書を不採択し
た八重山の教育委員
全員による協議の結果
を受け、子どもと教科

書を考える八重山地区住民の会の仲山忠亨共同
代表らは9日会見し、「市民、県民の良識の勝利
だ」と歓迎した。
仲山共同代表は「八重山の教育を混乱させた
玉津博克石垣市教育長は責任を取ってほしい」
と述べた。

八重山教科書採択、平和・人権責を勝利
協議ならず後味悪さも6月6日 琉球新報
13人の教育委員が集まり、5時間45分に
わたる協議の末、「つくる会」系の育鵬社版を
不採択にした協議。教科用図書八重山採択地区
協議会の会長として一連の混乱を招いた玉津博
克教育長は、腕を組んで宙を見詰めた。会場の
外まであふれた60人以上の傍聴人から拍手が
起こった。教科書採択をめぐる問題の浮上から
約2カ月。「つくる会」系教科書の不採択を訴
えてきた住民らは、平和と人権の尊重を求める
「民意」の勝利を喜んだ。

「答申した育鵬社版を採択したい者、挙手し
てください」。与那国町の崎原用能教育長が退
場し、席に着いている12人の教育委員のうち
手を挙げたのは3人。玉津博克石垣市教育長は
「多数決に反対だ」と手を挙げなかった。3市
町の教育委員長らの間には安堵（あんど）感が
広がった。
八重山教育委員会協議会の臨時総会として13
人全員が集まったが、採択権限はないとしてい
ったん閉会。3市町教委の委員全員が集まった
この場を協議の場とするのかどうかで議論は
堂々巡りになった。

玉津教育長と崎原教育長は「採択地区協議会
のどこが問題か」「法的拘束力はあるのか」と
応じようとしない。13人での協議が決まって
も多数決に反対。これまで無記名投票や多数決
で意見を通してきた2人の態度に傍聴人からは
失笑も漏れた。

結果、東京書籍版に決まり、傍聴人の間にも
安堵感が広がったが、多数決での採択に後味の
悪さも残った。竹盛洋一竹富町教育委員長は「本
意だ。話し合いで解決しなかったが、退席者
も出て残念でならない」と声を落とした。仲本
英立石垣市教育委員長は「本当は合議で決めた
かったが、多数決でも13人がそろって決めた
ことは大きい。子どもたちの教育のため、いい
結果になった」と話した。入慶田本朝政与那国
町教育委員長は「ほっとした」としな

からも「協議会が市民から疑問を持たれるような
選定をしたことが原因だ」と憤りを隠さなかった。
子どもと教科書を考える八重山地区住民の会の
仲山忠亨共同代表は「つくる会」系の教科書は、
子に渡してはならない。協議会のするやり方は、
市民の前では通らないことが証明された」と語っ
た。

八重山公民教科書「つくる会」系不採択 全
教育委員で多数決 6月6日 琉球新報
【八重山】2012年度以降の4年間、石垣
市、竹富町、与那国町の中学校で使用する公民
教科書の選定で3市町が異なる教科書を採択し
た状態を受け、3市町の教育委員13人全員が
8日、石垣市教育委員会協議会、多数決で教
科用図書八重山採択地区協議会（会長・玉津博
克石垣市教育長）が選定・答申した「新しい歴
史教科書をつくる会」系の育鵬社版を不採択と
し、東京書籍版を採択した。

3市町の教育委員13人は、八重山教育委員
協議会（会長・仲本英立石垣市教育委員長）の臨
時総会を開催。同会には教科書の採択権がない
ことから、同会を閉じた後、13人による会合
を教科書を一本化し採択する協議の場とするこ
とを確認した。
この場で協議会が答申した育鵬社版の採択に
ついて3人が挙手し、少数で不採択にした。そ
の上で、調査員が推薦し現在同地区で使用して
いる東京書籍版を8人が支持し、採択を決めた。
東京書籍版には4人が反対、与那国町の崎原用
能教育長は退席した。

同協議には県教育庁義務教育課も立ち会っ
た。13人の教育委員が集まったこの場を協議
の場とするかどうかで紛糾し、採決まで5時間
45分を要した。
採択地区協議会の会長として育鵬社版の選定
を主導した玉津石垣市教育長は多数決で決定す
ることに反発し、途中で退席したが採決の場
には出席、東京書籍版に反対した。結果について
「納得していない。協議の内容を文科省に報告
し、文科省の決定に従う」と話した。

教科書採択について同地区では八重山採択地
区協議会が「育鵬社版」を選定し3教委に答申
石垣市、与那国町の教育委員会は育鵬社版を採
択したが、竹富町は育鵬社版を全会一致で不採
択とし、東京書籍版を採択した。

八重山教科書採択 県教委主導、議決覆す
反対運動と一体 6月6日 産経新聞
「沖縄県教委は無法状態」。8日、石垣市と与
那国町、竹富町からなる「教科用図書八重山採
択地区協議会」で選定された育鵬社の教科書が
一転、不採択とされた。識者からは県教委の「こ
都合主義」の指導に「育鵬社反対運動と一体」
と批判の声が上がった。
「協議に戻らないと、地方教育行政法違反に

なりませよ」
8日に開かれた3市町の教育委員全員による協
議。県教委の関係者は石垣市教委の関係者にささ
やいた。
採決による採択のやり直しを強引に求める県教
委に対し、石垣市の玉津博克教育長は退席。約1
時間にわたり「抵抗」を続けた。
育鵬社を選定した8月の同協議会では、3市町
の教育長を含む教育委員2人ずつと学識経験者、
保護者代表（PTA）の8人による採決で、賛成
5、反対3だった。しかし、教育委員全員の13
人では竹富町の5人が全員反対のため、採決に持
ち込まれれば不採択が目に見えていたからだ。
同法は、教育長にすべての会議への出席を求め
ている。県教委の「指導」で、法律違反を恐れ
た玉津氏は協議に戻った。案の定、同協議会の決定
は覆った。
法律に基づき、玉津氏を指導した県教委だが、
そもそも教育委員全員による8日の協議は、採択
に関する法的権限のないものだった。竹富町側が
育鵬社を2度に取り替わったため、県教委が打
開策検討の場として開催を要請した。
ところが前日に急遽（きゅう）きゅうきゅうきゅう、採択やり直
しの場として位置づけると決定。協議では県教委
の担当課長が「協議には法的拘束力がある」と強
調し、議論を進めた。文科省は「3市町の合意」
を条件に協議を採択の場として認めたが、石垣
と与那国両市町側が「合意はない」としており、今
後、採択の有効性が焦点となる。その文科省は、
これまで「県教委が事態を收拾すべきだ」という
態度を崩していない。

同協議会関係者は「まるで育鵬社を不採択とす
るためのような指導で、県教委は無法状態だ」と
非難。ある教育委員経験者も「民主的に決まった
議決を県教委が横暴に覆した。各地で同様の事態
が起きた場合、採択制度に基づく議決が守れなく
なる」と懸念を示す。

ジャーナリストの櫻井よしこさんは「育鵬社の
教科書は国の検定を合格したにもかかわらず、沖
縄のメディアは連日、キャンペーンを張り、批判
し続けた。県教委は本来、公正な採択を守る立場
のはずなのに、批判に流され、加担してしまっ
たと批判する。

八重山地区、育鵬社を逆転不採択 石垣・与
那国は「無効」と反発 6月6日 産経新聞
沖縄県石垣市と与那国町、竹富町からなる「教
科用図書八重山採択地区協議会」が選定した育鵬
社の公民教科書を、竹富町教委のみが不採択とし
た問題で、3市町の教育委員全員による協議が8
日、石垣市内で開かれた。県教委の指導で採択の
やり直しとなり、賛成多数で育鵬社が逆転不採択
とされた。適正な手続きを踏んだ協議会の決定が
別の協議体により覆されたのは、昭和38年に現
行の教科書制度が始まって以来初めて。民主主義
のルールに反する決定といえ波紋を広げそうだ。

石垣、与那国両市町側は「3市町間の合意を得
ておらず無効」と強く反発。与那国町側は育鵬社
採択を維持する意向で、さらなる混乱が予想され
る。

3市町の教育委員13人全員が集まった八重
山教育委員協議会の臨時総会で、県教委はこの日の
協議を新たな採択の場とするよう求めた。
しかし、同協議会は任意の親睦団体で、採択に関す
る法的権限はない。

このため適正な手続きに基づく協議会の決定
通りに育鵬社を採択した石垣市の玉津博克教育
長と与那国町の崎原用能教育長が反発。協議が紛
糾する中、採決による採択方法が提案され、玉津
崎原両教育長は拒否して退席。協議は約1時間
にわたり中断した。

協議では結局、採決で採択することが賛成多数
で決定。採決では議長を除く賛成7人、反対4人
で育鵬社が不採択とされた。崎原教育長は棄権し
た。代わりに、竹富町が採択していた東京書籍が
採択された。

育鵬社の教科書問題 これは教科書採択制度
の危機 6月6日 産経新聞
沖縄県教委はこれまでの八重山採択地区協議
会とは別に、3市町の教育委員全員による新たな
協議の場を設け、多数決で育鵬社を不採択にし
た。すでに石垣市と与那国町の両教委は、協議会
の結論を踏まえ、採択手続きを終えていた。県教
委のやり方は法的にみても、疑問だらけだ。
採択制度とは、党派的な圧力や政治的な糾弾、
妨害などから教育委員を守り、彼らの目になっ
た教科書を選び、子供に届けるという大切な制度
だ。公教育を守るためにあるといえる。
協議会は、地区内の教科書を同一にするとい
う法律に基づいた組織で、すでに議決は終わって
いる。

「不採択運動が激しい」「地元メディアの糾弾
キャンペーンが収まらない」との理由で、いった
ん決まった特定教科書を狙い撃ちし、新たな協議
の場を設けて議決を覆すのでは、一体、何のため
の採択制度なのか。
守るべきは協議会の議決に基づく選定であり、
指導すべきは違法状態を生んだ竹富町だったは
ずだ。こうした要求を通せば、「不採択」が際限
なくまかり通り、採択制度は崩壊する。

県教委の「不当な採択介入」とともに、文部科
学省の動きが鈍かったことも重大な問題だ。採択
制度の崩壊は、民主主義に基づく教育委員会制度
の危機でもある。協議会の決定を横暴に覆した県
教委。制度の危機を黙認し、なすべき指導をしな
かった文科省。両者の責任は厳しく問われそ
うだ。（安藤慶太）

「コラコラ！ 朝日や読売は高見の見物ですか。そ
れは無いでしょ。編集係

編集係